

# 指導方法の課題分析と具体的な授業改善策および補充指導等の計画 国語科

# 小30 練馬区立光が丘春の風小学校

学年	課題分析（単元末テスト・授業の実態等）	授業改善案	改善状況
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>「話すこと・聞くこと」の学習では、身近なことや経験したことの理由を話すことはできる。一方、話し手が知らせたい事柄を落とさないように聞くことには、課題がある。</li> <li>「書くこと」の学習は、ひらがながようやく学習し終わりこれから、文章を書く練習を積み重ねていく。長音や拗音、促音、助詞等を正しく使うことなどの言語事項には、まだ定着には時間がかかる。</li> <li>「読むこと」の学習では、拾い読みになる児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>姿勢や口形、声の大きさや速さを意識して話すことができるように、繰り返し指導する。</li> <li>聴写など、集中して聞く活動を設定する。</li> <li>視写や文を書くときに机間指導などを通して正しく表記できるように指導する。</li> <li>相手意識をもたせ、読み手が読みやすいように句点や読点、助詞の使い方を意識して書かせるようにする。</li> <li>語や文のまとまりが意識できるように、文章に印を付ける。</li> <li>繰り返し、音読に取り組ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「書くこと」の学習では、経験したことについて「いつ、どこで、だれが、何を」を明らかにして文章を書けるようになってきている。</li> <li>音読や文字の練習を家庭学習として継続して取り組ませていることもあり、読める文字や文章が増えてきている。これからも継続していく。</li> <li>図書的时间や、団体貸し出しを利用し、本に触れる機会を多く作っているため、お話を聞いたり、読んだりすることについて慣れてきている。</li> <li>4月に比べると、聞く姿勢がよくなってきている。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な声の大きさで話すことや、順序立てて話すことが難しい。</li> <li>内容の聞き取りが正確でない児童がいる。</li> <li>簡単な文章は書くことができるが、助詞の使い方が不正確な児童や、順序に気を付けて書くことが苦手な児童がいる。</li> <li>「読むこと」については授業だけでなく、家庭でも繰り返し練習している。内容を十分に理解できていない児童がいる。</li> <li>平仮名や片仮名の表記・書き順、漢字の定着が不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>めあてをはっきりさせてから話したり、聞いたりし、みんなで認め合う指導を行う。</li> <li>「はじめ、中、終わり」を意識させる作文指導の工夫を行う。</li> <li>文章や言葉の意味を考えながら丁寧に読むことを意識させる。</li> <li>視写をしたり、板書・作文を書いたりする中で繰り返し指導していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表メモなど、発表のための準備をすることで順序立てて話す児童が増えてきた。</li> <li>慌てずに最後まで考えながら聞くことや、大事なことを落とさないで聞くために、メモの取り方を指導するなど、ポイントを押さえる練習をしている。</li> <li>作文の学習で身に付けた書き表し方を、他教科での書く活動に生かすとともに、書くときに字の表記などの指導を繰り返し行うことで、意識して書く児童が増えている。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手や目的に応じて、調べたことを話すことはできるが、筋道を立てて話すことは難しい。</li> <li>適切な声の大きさで話すことができない。</li> <li>自分のしたこと、見たこと、思ったことをそれぞれに分け、段落ごとに読み手に分かりやすく、正確に書くことが不十分である。</li> <li>内容の読み取りはおおむねできるが、段落の中心記述部分を落とさず読み取れる児童は少ない。</li> <li>学習した漢字、助詞、接続詞を文中で正しく使えない児童がいる。</li> <li>毛筆書写について、正しい姿勢、用具の使い方、筆の持ち方などについて理解しているが、正しい姿勢を保ち、腕を大きく使って書ける児童は</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>筋道を立てて話すことができるよう、話す内容をワークシートにまとめ、構成させる。</li> <li>声のものさしの掲示や聞く側の共感しながら聞く姿勢の指導等を通して、話しやすい環境をつくる。</li> <li>表現したり、理解したりするために必要な文字や語句を、辞書を活用して理解させる。</li> <li>文章全体の大まかな内容を捉えさせ、課題に応じた初発の感想をもたせる。文章の構成に基づいて段落ごとの内容をワークシート等で捉えさせる。</li> <li>文章の構成表を作り「はじめ、中、終わり」に分けた作文の書き方に慣れさせる。</li> <li>姿勢や毛筆用具の準備、片付け、筆の使い方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートの活用により、筋道立てて話せる児童が増えてきた。</li> <li>家庭学習として音読に毎日取り組ませることで自信をもって話す児童が増えてきた。</li> <li>日常的に言語環境を整えることによって、正しい言葉遣いで話すことができるようになった。</li> <li>休み時間や放課後の時間を使って、個に応じた指導を行い、学習の定着を図っている。</li> <li>漢字に興味をもって学習できるように、書き順の確認や熟語の意味を知る活動を通して、漢字の定着を図っている。</li> <li>点画の組み合わせ、全体の字形が分かるように資料を掲示し、一つ一つの点画の理解が深まってきた。</li> </ul>

	少ない。	ついて毎時間確認する。	
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習の漢字や言葉を正しく使うことに課題がある。</li> <li>登場人物の行動や気持ちなどについて、半数以上の児童が叙述を基に捉えることができている。</li> <li>様子や気持ち等を表す語句が不足している。</li> <li>話し手が伝えたいことの内容を捉え、自分の考えをもちながら聞くことが苦手な児童がいる。</li> <li>話したり、書いたりすることに意欲的な児童はいるが、中心が明確になるよう表現したり、話題に沿って話し合ったりする力は不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>辞書の活用や言葉集め、短文作りなど、言葉に興味をもつことができる活動を取り入れることで定着を図る。</li> <li>全体で文章の構成や要旨等を確認しながら学習を進める。</li> <li>目的意識をもって聞くことができるよう、観点を明確にしたワークシートを活用する。</li> <li>相手や目的を明確にして表現できるよう、文例や話形を提示する。</li> <li>家庭学習などを活用して、語彙や文法に関する学習を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の練習を毎日宿題にし、漢字の小テストを単元ごとに実施することで、漢字の定着率が向上してきている。</li> <li>要旨や観点を明示したことで、相手を意識した表現をする姿が見られるようになってきた。</li> <li>作文指導や語彙・文法に関する学習を通して、書いたり、話したりする際の表現力が向上してきている。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手意識をもって話したり、話を聞いたりすることが難しい児童が多い。</li> <li>書く活動では、個人差が大きく、個別指導が必要である。</li> <li>説明文などの叙述を正確に読み取ることが難しい児童がいる。</li> <li>言語の知識・理解についての習得は、個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話合いの方法や聞き手にとって分かりやすい発表の仕方は、具体的にどのようにすべきかを示していく。</li> <li>複数の文例の提示や、ワークシートの工夫をしたり、柔軟に学習過程を往復できるようにしたりして、自己調整力を育成しながら書くことの指導をする。</li> <li>全体で文章の構成や要旨等、確認しながら学習を進める。</li> <li>辞書の活用や言葉集め、短文作りなど、言葉に興味をもてるような活動を取り入れることで定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットで資料を作成し、モニターで資料を提示しながら自分の考えを伝えられるようになってきた。</li> <li>自分一人だけの力では難しい児童はいるが、全体的に友達との相互評価により目的に応じた文章を書くことができるようになってきた。</li> <li>学習を積み重ねることにより、キーワードを抜き出したり、段落ごとに読んで要旨をまとめたりすることができるようになってきた。</li> <li>言葉の知識が少しずつ増え、文章に表そうとする児童が増えてきているが、定着には至っていない</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的や意図に応じて話したり、話を聞いたり、自他の意見を比較したりして、自分の考えをまとめることが難しい児童が多い。</li> <li>書く活動では、個人差が大きく、個別指導が必要である。</li> <li>問題の意図を理解し、必要な情報を適切に取り出すことを苦手としている児童が多い。</li> <li>言語の知識・理解についての習得は、個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料を活用して自分の考えを伝えられるようにする。</li> <li>自分が求めたり、生かしたりしたい情報は何かを明確にさせてから話を聞かせる。共通点や相違点を整理したり、共感した内容などを取り上げたりして、自分の考えをまとめるよう指導する。</li> <li>書く活動では、ワークシートなどを複数用意し、児童の実態に合わせて選べるようにする。</li> <li>文例を示すことで、見通しをもって学習できるようにする。</li> <li>全体で文章の構成や要旨等、確認しながら学習を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えをもったり、友達の多様な考えを認めたりすることはほとんどの児童ができるようになった。</li> <li>友達の考えを聞いて、共通点や相違点に触れて自分の考えを再構築する児童も増えてきた。</li> <li>個別指導することで、どの児童も提案文などを書くことができた。</li> <li>構成メモがしっかりとできている児童は、一人で記述できるようになってきた。</li> <li>文章全体の構成や書き表し方などに着目して推敲する児童が増えてきた。</li> <li>多くの児童が、叙述を基に事実と感想、意見などとの関係に着目して文章全体の構成を捉えら</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 叙述だけでなく、表やグラフの見方・考え方をより丁寧に指導し、与えられた情報を活用して問題を解決する指導を丁寧に行っていく。</li><li>・ 語彙を増やす活動を日常的に行う。</li></ul>	<p>れるようになった。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 漢字については短期的に覚えている児童は多いが、長期的な定着には至っていない。</li></ul>
--	--	---

# 指導方法の課題分析と具体的な授業改善策および補充指導等の計画

## 社会科

## 小30 練馬区立光が丘春の風小学校

学年	課題分析（単元末テスト・授業の実態等）	授業改善案	改善状況
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習問題を解決するために、必要な情報を読み取ったり、分かったことを表現したりすることに個人差がある。</li> <li>練馬区の地形や交通などについて、知識の定着に個人差がある。</li> <li>見学活動が制限される中、意欲を高め、理解を深めることが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題意識を高める導入を行い、主体的に取り組む態度を育む。資料の読み取り方や記録の仕方などの技能について丁寧に指導する。</li> <li>基本的な知識が定着するよう、短時間の復習を繰り返し行う。</li> <li>視覚に訴える資料提示を行い、関心を高める。</li> <li>ゲストティーチャーを招き、理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ソーシャルディスタンスに留意しつつ、ペアやグループで学び合う学習を短時間でも取り入れたことで、問題意識をもって学習に取り組めるようになってきている。</li> <li>地域の生産・販売を学習する単元では、実際に農家訪問を行った。実際にインタビューしたり、体験する機会を設けたりしたことで、学習に対する理解がより深まってきている。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活経験に乏しく、社会的事象に対する関心が低い児童が多い。</li> <li>社会的事象に対する知識の定着が十分でない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTの活用や出前授業を行うなどして社会的事象に対する関心を高めていく。</li> <li>毎日の生活に目を向け、日常の生活体験と比較したり関連付けたりしながら学習を進めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材やゲストティーチャーの工夫を通して児童の社会への関心に高まりがみられた。</li> <li>学習内容と自分の生活を比較したり関連付けたりすることで、学習内容の理解や思考が深まった。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題を解決するために必要な資料や情報を、的確に取捨選択する力の個人差が大きい。</li> <li>社会的事象が自分に関わりのあるものと捉え、自主的に調べたり、考えたりする態度は、今後身に付けていく必要がある。</li> <li>社会事象に対する関心のもち方に個人差が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決に必要な情報を考えてから、情報収集に取り組ませる。キーワードに着目して、資料を読み取ることを繰り返す。</li> <li>実物資料や新聞資料など、教科書以外の資料も適宜提示して、社会とのつながりを実感させていく。家庭での聞き取りや調査を促し、自主的な学習態度を称賛していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書以外の実物資料や新聞記事などを活用したことによって、社会とのつながりについての興味・関心をもたせることができた。</li> <li>キーワードに着目させながら、資料の読み取りをさせたことで、問題解決に必要な情報を的確に選ぶことができた。</li> <li>問題解決学習の際に、多くの資料の中から必要な情報を取り入れることができるようになってきた。</li> <li>自ら課題を設定して取り組むような自主的な活動は、まだ不十分である。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分と国や身近な地域の政治に関わる事柄について興味関心が低い児童が多い。</li> <li>基礎的資料（文化財、地図帳、年表）を通して、情報を適切に調べまとめることが苦手な児童が多い。</li> <li>政治の仕組みや歴史上の主な事象について知識の差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活で関わりのある事例をできるだけ扱い、憲法や政治の仕組みに興味をもたせる。</li> <li>比較的分かりやすい想像図の読み取り・比較を通して「なぜ違うのか」という理由を意識させる。</li> <li>予想や学習計画を立てたり、学習のふり返りをしたりすることで、主体的に学習問題に取り組めるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての法律は日本国憲法に基づいて定められていることに気付くとともに、日常の法律への興味・関心をもたせることができた。</li> <li>想像図の読み取り・比較から、歴史的背景に興味をもつ児童が増えた。</li> <li>知識量を生かして積極的に発言する児童が増え、議論しながら学習を進めることができた。</li> </ul>

# 指導方法の課題分析と具体的な授業改善策および補充指導等の計画

算数科

小30 練馬区立光が丘春の風小学校

学年	課題分析（単元末テスト・授業の実態等）	授業改善案	改善状況
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>たし算やひき算の計算は理解してきたが、繰り上がり、繰り下がりがあると混乱する児童がいる。</li> <li>量の大きさや長さ、図形についての理解はおおむね定着している。</li> <li>時刻に関心はあるが、時計を正確に読むことが難しい児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数と計算領域ではブロック操作を十分に行い、図形や測定の場面では、具体物に多く触れさせる。</li> <li>実際に活動する場面を増やし、友達の意見なども聞きながら理解を深めていく。</li> <li>プリント、ドリルで繰り返し練習させることにより、学習内容の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体物を用いた学習を十分に行うとともに、プリントやドリルを用いた反復練習を行うことで基礎的な知識・技能が身に付いてきた児童が多い。</li> <li>時刻の読み取りは、苦手な児童がいるため、今後も継続して学習を行っていく必要がある。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>計算（繰り上がり、繰り下がりのあるたし算・ひき算の筆算）は理解できているが、演算決定については課題が残る。</li> <li>時刻と時間、重さについての理解は個人差が大きい。</li> <li>千までの数の表記、大小については定着が不十分な児童がいる。</li> <li>ものさしを使って直線を引いたり、正確な長さを書き表したりすることに課題が残る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な知識・技能は、プリントやドリルを繰り返し学習させ、定着を図る。</li> <li>時刻と時間、長さを日常生活の中で意識的に使いながら、繰り返し指導をしていく。</li> <li>児童が体験を通して、楽しく問題解決できる数学的活動の内容を考え、習熟を図っていく。</li> <li>繰り返し用具を使う機会を作ることで、技術の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>補充問題を用意し、反復練習に取り組みせることで、基礎的な知識・技能が身に付いてきている児童が増えている。</li> <li>時刻と時間の学習を繰り返し行っているが、苦手な児童が多く、今後も継続が必要である。</li> <li>数学的活動を取り入れることで児童の学習への興味が高まった。</li> <li>正確に長さを測ったり、直線を引いたりすることは、まだ苦手な児童が多いので継続して指導していく必要がある。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な知識、計算の能力が身に付いている子が多いが、個人差があるのが過大である。</li> <li>除法の計算処理はおおむね定着しているが、場面の違いに気付かずに除法の立式をしたり、わり切れない場合の等分除の計算の違いに混乱したりすることが多い。</li> <li>測定領域では、上位単位を用いた長さの表し方や時間の加法計算で、課題が残る児童が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な知識・技能は繰り返し学習させ、確実な定着を図る。</li> <li>演算決定について、問題を見比べたり、図や具体物を操作したりしてイメージをもたせる。</li> <li>日常生活で必要とされる事象、場面との関連を図り、数学的活動を取り入れた学習を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計算練習を中心にドリル学習を実施し、個別指導も取り入れながら習熟を図ったことで、基礎的・基本的な知識・技能が高まってきている。</li> <li>測定領域においては、学習内容に応じて、作業的・体験的活動を取り入れた。体験的な学習を通して、理解も深まってきている。</li> <li>補充コースでは、学習内容の復習を授業前半で計画的に行った。しかし、学習内容の定着が十分でないため、継続的な指導を行っていく必要がある。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>3位数÷1位数（商に空位を含む）、3位数÷2位数のわり算の筆算では誤答が多い。</li> <li>図形「角の大きさ」「垂直・平行と四辺形」では、180°より大きい角や平行四辺形やひし形の作図で課題の残る児童が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟に課題の残る児童には、既習内容の復習を授業内で継続的に行う。仮商修正の仕方などを習熟度に応じて丁寧に指導する。</li> <li>児童一人一人が用具の操作を適切に行えるよう、使用法を指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドリル、プリントを活用し、反復練習に取り組みせることで、基礎的・基本的な技能の習熟度が高まった。</li> <li>コンパスや分度器の使い方、測定の仕方、作図方法など、繰り返し個別指導を行い、適切に用具の操作を行えるようになってきたが、操作活動の定着に課題のある児童もいる。</li> </ul>

5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小数の除法で余りの小数点の位置の理解や小数の倍について、「基準量を1とみたとき、比較量がいくつにあたるか」の理解に課題がある</li> <li>・自分の考え方を線分図や式に表し、説明することに課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数量の関係に着目して、テープ図や数直線の図を用いて式を立てさせる。</li> <li>・習熟度に応じた問題を用意したり、自分の考えをまとめたり説明したりする経験を多くさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドリル、プリントを活用した結果、計算や図形をかくことなどの習熟度が高まってきた。</li> <li>・多様な考え方や解決方法が出るよう、問題提示の工夫や解決方法の意見交換を行ったため、問題に対する考え方の見方が広がってきた。</li> <li>・問題を解決するために必要な自分の考えをもつ時間を十分に確保するようにしたが、一人一人が自分の考えをもって問題と対峙できるまでには至っていない。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基準量、比較量が分数の場合の倍の求め方について数直線の図から立式することに課題がある。</li> <li>・演算決定について、図や数直線を用いて、根拠を明らかにして説明することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分数の大小関係を通分したり、小数に置き換えたりして捉え、2本の数直線に書き表す。</li> <li>・「文字を使った式」や「図」などを用いて自分の考えを発表する活動を多く取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の実態・コースに応じて、「図や数直線に表す」「作問する」など、個々に合った課題を設定し、意欲的に取り組める教材と時間を設定する。</li> </ul>

学年	課題分析（単元末テスト・授業の実態等）	授業改善案	改善状況
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決学習の流れがまだ定着しておらず、事象を比較し、違いを見付けながら問題を作ったり、考えたりすることには課題がある。</li> <li>観察したことや実験したことを整理してまとめる力には、個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意欲的に学習に取り組めるよう、問題提示や導入の仕方を工夫する。</li> <li>問題解決の流れを繰り返し行っていくことで、子供たち自らが問題解決学習を進められるように指導を行っていく。</li> <li>他教科との関連を図りながら、まとめ方や発表の仕方について習熟を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子供が興味をもつような事象提示を行い、考える視点を教師側が与えていることで、徐々に課題意識をもって取り組めるようになってきた。</li> <li>問題解決の流れを示したプリントを配布し、いつでも確認できるようにしたことで、次の活動を伝えなくても子供自ら取り組めるようになってきている。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察・実験に興味をもって意欲的に取り組むことができる。</li> <li>既習事項や生活経験と結びつけて予想することが苦手である。</li> <li>結果から分かったことを考察したり、まとめたりすることが苦手な児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入で既習事項や生活経験を想起する場面を設定し、関連付けながら学習を進められるようにする。</li> <li>話形を示したり、他教科との関連を図ったりしながらまとめ方や発表の仕方についての習熟を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項や生活経験に即して予想することができる児童が増えてきた。</li> <li>話形を確認したり、他の児童のまとめ方などを参考にしたりして、自分の言葉で考察したりまとめたりできるようになってきた。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>事象から問題を見だし、主体的に問題解決を行うことが不十分である。</li> <li>実験は興味をもって行うが、その結果をまとめたり、分析したりすることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が興味・関心をもつ事象を提示し、その比較などから、問題を見いだすことができるようにする。</li> <li>観察・実験を行う前に、どのような結果になるか見通しをもたせる。</li> <li>結果から考察する場面における処理方法の指導をより丁寧に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入の事象から多くの疑問点や調べたいことを見いだせるようになってきた。そして、そこから学習問題を作成することに慣れてきている。</li> <li>見通しをもつことで、結果から考察を考慮することができるようになってきた。</li> <li>まとめを言葉に表すことにはまだ課題がある。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験は興味をもって行うが、出た結果を吟味し、自分の考えにつなげていく力に個人差がある。</li> <li>観察・実験の結果から分かったことを考察として表し、周囲に伝えることを苦手としている児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考察のまとめ方を示し、文章だけでなく、絵や図、グラフ等も使いながら効果的にまとめるよう助言する。</li> <li>結果から考えられることや推論できることを基に、学級全体で考える場を設ける。</li> <li>上記の学習スタイルを、まとめが苦手な児童に重点的に指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人が考察した内容について全体で共有する時間を十分に確保したため、考察する力が付いてきている。</li> <li>デジタル教材やメディアを活用したことで、既習した内容が日常生活の中でも多く役立っていることを理解している児童が増えた。</li> </ul>

学年	課題分析（学力調査結果・単元末テスト・授業の実態等）	授業改善案	改善状況
1年	<ul style="list-style-type: none"><li>・アサガオの栽培に関して、興味・関心をもち、水やりや観察等、積極的に取り組んでいる。しかし、自然や環境に対する視野は狭く、思考力は不十分である。</li><li>・気づきや分かったことを絵や文で表現する力に個人差が見られる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・体験活動を多く取り入れ、関心を高めていく。</li><li>・思ったことや感じたことをカードに書き、他の児童と共有する時間を確保する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・お互いの考えを共有する時間を多く設けることで、体験活動における気づきや自分なりの考えをもち、絵や文で表現しようとするできるようになってきた。</li></ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"><li>・興味や関心をもち、積極的に取り組んでいるが、自ら発見、探究しながら問題に取り組む姿勢に課題が見られる。</li><li>・自然のものの特徴をつかんだり、違いに気付いたりする力に個人差が見られる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・思ったことや分かったことから、自分なりの視点に着目させ、問題意識をもたせる。</li><li>・友達の考えを共有させ、自分の観点以外の考え方に気付かせる。</li><li>・まとめ方を工夫し、学習の成果とすることができたかを確認する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・活動や体験による気づき、考えをもつというプロセスを繰り返す時間と場を設定することで、自分なりの表現ができるようになってきた。</li></ul>

学年	課題分析 (学力調査結果・単元末テスト・授業の実態等)	授業改善案	改善状況
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽を楽しみ、身体を動かして表現することができるが、リズムに合わせてられない児童がいる。</li> <li>鍵盤ハーモニカの演奏技術は個人差が大きく、個別指導が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>拍に合わせて歩く、歌に合わせてリズムを打つなどの活動を多く取り入れる。</li> <li>キーボードで簡単な曲を演奏するときに、個々の児童の実態に合った課題を用意し、苦手な児童も演奏の楽しさを味わえるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽的な活動を多く取り入れたため、音楽のもっている楽しさに気付き、味わって聴けるようになってきている。</li> <li>リズム表現の場を多く設定したため、拍の感覚がつかめてきた児童が増えた。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体全体で音楽を感じ取り、のびのびと表現することが苦手な児童がいる。</li> <li>鍵盤ハーモニカ（現在はポータブルキーボードを使用）の演奏技術は、個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽に合わせて歩いたり、リズム打ちをしたりし、身体全体で音楽を楽しめるようにする。</li> <li>ドレミ体操やハンドサインなどで音の高さをつかませる。</li> <li>技能面で難しい児童も、楽しく音楽と関わることを大切に、温かな言葉掛けをすることで苦手意識をもたせないようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音をよく聴くことを意識して、表現する活動に取り組み、音楽を楽しんでいる様子が見られる。</li> <li>ポータブルキーボードが苦手な児童は、スモールステップで取り組ませ、その都度評価することで、自信をもつ児童が増えた。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>拍感や旋律のまとまりを感じ取ったり、拍の流れに乗って表現したりすることが難しい児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>拍の流れを感じながらリズムリレーや拍歩きをするなど、身体で表現できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>合奏の際には、拍を意識する必要があると感じ取っている。技能として習得できるように指導を継続している。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>音符や休符の名前や長さ、音階、拍子などを理解していない児童がいる。</li> <li>打楽器等で力の調整が難しい児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>常時活動として音符や休符の長さやドレミの読み方を学習し、理解を深める。</li> <li>音色をじっくり聴く活動を取り入れ、よりよい音色で演奏しようとする意識を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音符や音階への理解は、個人差があるので、継続して常時活動を行っていく。</li> <li>リレー奏で一人で弾く場面では、音色に注目することができた。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌唱において声を出すことへの抵抗感がある。基礎的な歌唱の技能が不足している。</li> <li>リコーダーの基礎的技能的積み重ねができていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>声を出すことが楽しいという体験を積んでいく。</li> <li>常時活動としてリコーダーを扱い、3年生の学習から振り返りながら基礎的技能的を付けていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>声を出す技能が少しずつ身に付き、歌うことの気持ちよさを感じる場面が増えてきた。</li> <li>リコーダーは、サミングまで復習することができた。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲にふさわしい表現を考え、思いや意図をもって音楽表現を工夫する能力に個人差がある。</li> <li>リコーダーの技能の積み重ねができていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽の要素や仕組みを手掛かりとして、表現を考える活動を行う。</li> <li>常時活動として、リコーダーの基礎的な奏法を扱う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽譜と表現をつなげる言葉掛けを行い、楽譜から読み取るという習慣が付いてきた。音楽の要素や仕組みを手掛かりに考えることができるように継続して指導していく。</li> <li>指使い等確認しながら進めることで、自信をもってリコーダーを演奏できるようになってきた。</li> </ul>

# 指導方法の課題分析と具体的な授業改善策および補充指導等の計画

## 図画工作科

## 小30 練馬区立光が丘春の風小学校

学年	課題分析（学力調査結果・単元末テスト・授業の実態等）	授業改善案	改善状況
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>興味をもって楽しく取り組む児童が多い。</li> <li>意欲はあるが、自分の作りたいものを思うように表現できない児童がいる。</li> <li>絵の具、画用紙、粘土等、いろいろな素材の使い方に慣れていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>造形遊びを通して、体全体の感覚や技術を高めるようにする。</li> <li>絵の具・はさみ・のりなどを扱う経験を積むことで表現の幅が広がるように、計画的に取り組んでいく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品に興味をもち、その楽しさを味わえる児童が多い。</li> <li>道具を用いて、感性を働かせながら作品をつくることのできてきた。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な単元において、興味をもち、想像力を膨らませながら楽しく取り組む児童が多い。</li> <li>自分のイメージと作業工程が一致しなかったり、表現するために必要な技術が伴わなかったりして思い通りに表現できない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>素材の幅を広げていき、創作する経験を積み、思い通りの作品を仕上げるように指導する。</li> <li>絵の具や粘土など、様々な素材に触れることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手だての必要な児童には、児童の思いに近付ける支援をすることで、より意欲的に取り組む児童が増えた。</li> <li>様々な素材に触れ、多様な表現方法を身に付けることは今後も継続して指導する必要がある。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの題材についても興味をもち、意欲的に活動できる。様々な材料・用具に触れる機会を設け、表現の幅を広げていく必要がある。</li> <li>様々な道具や材料の経験が不十分で、表現方法がわからない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>用具の扱いに慣れ、材料体験を積みながら児童が主体的に取り組める題材を設定したり、環境設定を工夫したりしていく。</li> <li>道具等の使用方法を丁寧に指導することで、技能面の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉掛け、支援を続けることで、作品の完成度を高められる児童が増えた。</li> <li>材料を選んだり、試行錯誤しながら表し方を考えたりする機会を多くし、表現の幅が広がった。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの題材についても興味をもち、意欲的に活動できる。様々な材料・用具に触れる機会を設け、表現の幅を広げていく必要がある。</li> <li>意欲はあるものの、技術が十分でない児童もいる。工具や用具の使い方を習得し、安全に使いこなす必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>木工や粘土などの材料を用いた活動を取り入れ、児童が主体的に取り組める題材を設定したり、環境設定を工夫したりしていく。</li> <li>工具などの用具の扱い方に慣れ、図画工作に関心を高められるように取り組んでいく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞を通して児童同士が互いに理解し、良さを認められる機会を増やしたため、制作意欲が高まっている児童が増えた。</li> <li>様々な材料・用具に触れる経験をさせることで、表現の幅が広がった。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほとんどの児童が意欲的に取り組もうとしているが、様々な材料・用具に触れる機会を設け、表現の幅を広げていく必要がある。</li> <li>意欲はあるものの、技術が十分でない児童もいる。工具や用具の使い方を習得し、安全に使いこなす必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な表現方法を考えさせながら、自分が表したいことに自信をもって表現できるように支援していく。</li> <li>木工や粘土などの材料を用いた活動を取り入れ、児童が主体的に取り組める題材を設定したり、環境設定を工夫したりしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞を通して児童同士が互いに理解し、良さを認められる機会を増やしたため、制作意欲が高まっている児童が増えた。</li> <li>様々な材料・用具に触れる経験をさせることで、表現の幅が広がった。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほとんどの児童が意欲的に取り組もうとしているが、自分らしい表現をするための用具の扱い方や材料の経験が十分でないため、主題を見つけ、表現方法を工夫して主体的に活動することが難しい児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>題材のねらいを精選して、意欲をもたせられる導入を工夫する。</li> <li>道具の使い方や表現技法、材料体験を増やしながら児童が主体的に取り組める題材を設定したり、環境設定を工夫したりしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な材料や表現方法を選べる環境をつくり、意欲をもって学習活動に取り組めるようになった。</li> <li>自ら考え、表現方法を工夫して主体的に活動に取り組む児童が増えた。</li> </ul>

# 指導方法の課題分析と具体的な授業改善策および補充指導等の計画

体育科

小30 練馬区立光が丘春の風小学校

学年	課題分析（学力調査結果・単元末テスト・授業の実態等）	授業改善案	改善状況
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団行動を意識した行動が少しずつできるようになっている。</li> <li>・運動経験の差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団で取り組むゲームや遊びを多く取り入れていく。</li> <li>・ルールを守ることの大切さを理解させる。</li> <li>・健康や安全に留意して運動できるように、日頃から指導していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認め合い、励まし合える場面を多く設定したことで、集団を意識した行動が取れるようになってきた。</li> <li>・指導を積み重ねることで、一人一人の運動経験が増えてきている。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団で協力してゲームに取り組むことが苦手な児童が見られる。</li> <li>・運動時間が十分でない児童が多く、運動経験の差を感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームや遊びのルールを工夫し、協力することの楽しさを味わわせる。</li> <li>・授業内での運動量を確保するとともに、学習カードを用い、めあてをもって粘り強く取り組ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まだまだ協力の姿が十分に見られないが、楽しく活動する姿が見られるようになってきた。</li> <li>・工夫したゲームや遊びを行うことにより、最後まで学習に取り組むことができた。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの運動も意欲的に取り組めるが、鉄棒やマット運動などは苦手意識をもっている児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄棒やマットなど技能の習得が必要な運動では、運動の場の工夫をし、習得のコツを具体的に指導したり、子供たち同士で教え合ったりする時間を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マット運動では、基本の練習を多く取り入れ、習得ができていない児童専用の場を設定するなどしたため、児童の技能の向上が見られた。</li> <li>・教え合い活動は場の設定はしたものの、感染症予防のため、改善が見られるほど多くは設定できなかった。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に取り組む児童が多い。</li> <li>・児童相互で励まし合いながら運動することができる。</li> <li>・課題を認識したり、どのように改善すればよいか考えたりすることが苦手な児童が多い。</li> <li>・児童によって技能に差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードを工夫したりICTを活用したりすることで、練習の方法を分かりやすく知らせる。</li> <li>・スモールステップで課題を提示し、段階的に技を身に付けさせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・練習の方法をわかりやすく知らせることで、課題解決にすすんで取り組む姿が見られるようになってきた。</li> <li>・基礎的な技から発展的な技につなげる場を設定していくことで、個別の課題に合わせた練習を行うことができた。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな運動に意欲的に取り組むが、器械運動や鉄棒運動など、運動によって苦手意識をもっている児童が多い。</li> <li>・勝敗にこだわり過ぎる児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技を身に付けられるようにするために、段階別に練習の場を設け、自分の課題に合った練習場所を選択させる。</li> <li>・技を身に付けられるようにするために、正しい技の映像を見せて、イメージをもたせる。</li> <li>・学習のねらいを明確に児童に提示し、意欲的に取り組んだり、技能の習得を意識したりすることで、勝敗以外の価値観を高められるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアやグループでの活動を通して、運動の仕方を理解することはできているが、技能習得が難しい児童がいる。</li> <li>・器械運動や鉄棒などへの苦手意識をもつ児童が多いため、更に指導の積み重ねが必要である。</li> <li>・学習のねらいを自分の課題に沿って設定させたことで、勝敗だけでなく自らの目標達成に焦点を当てさせることができるようになってきた。</li> </ul>

<p>6年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動に対してはおおむね意欲的に取り組む児童が多い。</li> <li>・自分が得意と感じていない運動になると、意欲的に取り組まない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力して学習に取り組むことの良さ、効果について指導していく。</li> <li>・運動することの心地よさや、運動に取り組もうという意欲がもてるように学習計画を立案したり、教材の工夫をしたりする。</li> <li>・個人の目標をもたせて、目標に近づくことの心地よさを感じられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで教え合う活動を取り入れたことで不得意な活動でも、楽しもうと意欲をみせる児童が増えてきている。</li> <li>・器械運動・鉄棒運動を苦手と感じている児童はまだ多い。今後はタブレットで動画を撮影するなどして、自ら課題を見付けて練習に取り組めるようにする。技能を高めたいという意欲がもてるよう支援していく。</li> </ul>
-----------	--	---	--

学年	課題分析（学力調査結果・単元末テスト・授業の実態等）	授業改善案	改善状況
5年	<ul style="list-style-type: none"><li>裁縫などの実技には意欲的に取り組んでいるが、手先の器用さや生活経験などによる差があり、時間がかかることが多い。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>ICT機器を活用して、やり方を分かりやすく提示する。得意な児童が助言するなど、個々の技能を高める時間を設定する。</li><li>実習内容によっては、地域ボランティア等に授業参加をお願いし、個別に支援を行う。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>個別対応を重ねたり、得意な児童が助言したりすることで、裁縫の技術が少しずつ定着してきている。</li><li>学習したことを生活に生かそうと考えている児童が多くなった。</li></ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"><li>調理などの実技には大変意欲的に取り組んでいるが、生活経験などによる差があり、手順を理解するのに時間がかかることが多い。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>ICT機器を活用して、やり方を分かりやすく提示する。得意な児童が助言するなど、個々の技能を高める時間を設定する。</li><li>実習内容によっては、担任や地域ボランティア等が授業に参加し、個別に支援を行う。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>児童同士でサポートし合い、活動している。</li><li>学習したことを生活に生かそうと考えている児童が多くなった。</li></ul>

# 指導方法の課題分析と具体的な授業改善策および補充指導等の計画

# 外国語活動・外国語科

## 小30練馬区立光が丘春の風小学校

学年	課題分析 (学力調査結果・単元末テスト・授業の実態等)	授業改善案	改善状況
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語に苦手意識をもち、友達とコミュニケーションをとることに消極的な児童がいる。</li> <li>歌やゲームなどの活動に積極的に取り組もうとする児童は多いが、なかなか取り組もうとしない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体・音声・表情などによる表現活動を十分に取り入れる。同じ活動を繰り返すことで、安心感を高める。</li> <li>簡単なゲームやロールプレイなどを取り入れ、楽しみながら活動できるようにする。子供同士での活動を多くすることで、意欲を高めるとともに、学びの定着・活用を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の国々の遊びや行事など、異文化に気付くような内容を盛り込んだ活動を取り入れたため、楽しく活動できる児童が増えた。</li> <li>声を出さなくても活動できる作業的活動を取り入れたため、英語活動に対する関心が高まった。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語の言い方をなかなか覚えられず友達とコミュニケーションをとることにやや消極的な児童がいる。</li> <li>歌やゲームなどの活動に積極的に取り組む児童とそうでない児童に差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体・音声・表情などによる表現活動を十分に取り入れる。</li> <li>簡単なゲームやロールプレイなどを取り入れ、楽しみながら活動できるようにする。</li> <li>簡単な英語を聞いて取り組めるような活動を取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の国々の遊びや行事などに関連する活動を取り入れることで、日本と異文化との共通点や差異点に気付くことができた。</li> <li>簡単な英語のできる活動を取り入れたことで、積極的に取り組む児童が増えた。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語で友達とコミュニケーションをとることにやや消極的な児童がいる。</li> <li>アルファベット大文字や小文字の区別が、十分でない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チャンツ表現を繰り返し練習し、自分のことをすすんで伝えられるような活動を取り入れる。また、異文化に気付くような内容を盛り込んだ活動を取り入れる。</li> <li>単元の Goal を常に意識させ、学習を進める。</li> <li>ワークシートを用いて「書く」活動を取り入れる。また、ALT の発音を聞いて書くことにも慣れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習のチャンツ表現を用い、自分や友達のことを簡単なやり取りで伝える活動ができるようになってきた。</li> <li>単語を書き写す活動を通して、アルファベットの定着を図ることができた。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語で友達とコミュニケーションをとることにやや消極的な児童がいる。</li> <li>アルファベット大文字や小文字の区別が、十分でない児童がいる。</li> <li>5分程度の映像や音声を視聴して、英語で情報を得ることが苦手な児童が多い。</li> <li>フォニックスを苦手とする児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モデル会話、ペアトークなど話したり聞いたりする活動時間を増やす。</li> <li>毎時間アルファベットドリルノートを用いて「書く」活動を取り入れる。</li> <li>映像や音声を短いセンテンスごとに区切りながら何度も視聴する。</li> <li>毎時間2～3個のアルファベットを取り上げ、ALTを真似ながら発音する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のことや学校生活について聞いたり話したりすることに自信がもて、楽しんで行えるようになった。</li> <li>単語や短文を書き写す活動を通して、アルファベットや英文のきまりを理解することができた。</li> <li>知っている単語と映像を手掛かりに、情報を得ることができるようになった。</li> <li>NとMなどの似ているアルファベットも聞き取れるようになってきた。</li> </ul>

学年	課題分析 (学力調査結果・単元末テスト・授業の実態等)	授業改善案	改善状況
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>1学期は、文字を書くことが難しい児童もいるため、発言による振り返りが多かった。進んで発表する児童は多いが、皆の前で発言するのが苦手な児童もいる。</li> <li>友達の発言を聞くことで、自分の経験を想起し、自己の考えを深めている児童が少しずつ増えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書く部分が少ないワークシートを活用する。</li> <li>導入で、アンケートや身近な出来事を取り上げ児童が自分事として考えられるようにする。</li> <li>教材提示を工夫し、登場人物に自我関与できるようにする。</li> <li>友達の意見を聞いたり、自分の経験を振り返ったりして、気付いたことを共有する話合いの場を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入や教材提示を工夫したことで、児童が自分事として考えられるようになった。</li> <li>役割演技では、登場人物に自我関与し、自分の考えを表現できるようになってきた。</li> <li>自分の経験を想起したり、友達の話を聞いて思い出したりして、自己の振り返りができるようになってきた。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>意欲的に取り組む児童が多いが、自分の考えをもつことが苦手な児童がいる。</li> <li>自分事として考えたり発言したりする児童が限られている。</li> <li>考えをもっていても、それをうまく表現できない児童がいる。</li> <li>授業中の発言が一部の児童に限られており、全体での話合いを深めることが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材提示を工夫し、児童が意欲をもって取り組めるようにする。</li> <li>自己の振り返りがしやすいワークシートを用意する。</li> <li>発言だけでなく、ワークシートやロールプレイを取り入れ、様々な方法での表現を促す。</li> <li>ソーシャルディスタンスに気を付けた少人数での話合いの場面を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>工夫した教材を提示し、児童が意欲的に参加していた。</li> <li>全体的に書ける児童が増えてきているが、中には書けない児童もいる。</li> <li>発言をなかなかしない児童もロールプレイなどに積極的に参加し、考えを表現していた。</li> <li>話合いを取り入れ、成果を上げてきたが、今後も話合いの方法を検討していく。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物の心情や考えを問う学習では、授業の中で発言する児童が限られている。</li> <li>自己の振り返りの時間には、教材を通して自分の体験を重ね、考えることが必要であるが、どんなことを書いたらよいか思いつかないと感じている児童がおり、振り返りがしにくい場合がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材提示や場面絵の提示を工夫し、児童が考えやすい発問をする。</li> <li>挙手していない児童も意図的に指名する。</li> <li>授業前にアンケートを取ったり、導入で価値に触れる発問をしたりしておき、一人一人が振り返りがしやすいようにしておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の中で、自分の考えを発言させる機会を多く取り入れることで、自分の考えを書きやすくなり、振り返りを行えるようになった。</li> <li>「つなげよう」にある内容を考えさせたり、本を読み聞かせたりすることで、考えが深まりやすくなった。</li> <li>他教科の授業でも同様の価値について考えさせることで、価値についての理解を深めることができた。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材文を読んで自分の考えをもつことができている。</li> <li>友達の意見から自分の考えを深めたり、広げたりすることが苦手な児童がいる。</li> <li>経験をふり返る活動から、これからの自分の姿を想起することが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ねらいを明確に示した上で少人数での話合いを行い、自分の考えを比較しやすい授業形態を工夫する。</li> <li>教材提示の仕方を工夫し、児童が考えやすい発問をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを比較しやすい授業形態を工夫することで、考えに深まりや広がりが見られた。</li> <li>自己の経験を振り返って考えることはできるようになっているが、これからの姿を想起することは依然として難しい。</li> </ul>

5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳ノートへの記述はするが、授業の中で発言する児童に限られ、積極的に意見を発表できない児童が多い。</li> <li>・教材を自分ごとに置き換えて振り返ったり、友達の発表を聞き、そこから視野を広げたりすることが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に意見を発言できない児童のために、ソーシャルディスタンスに留意した小グループでの話し合い活動を多く取り入れる。</li> <li>・自分の経験や体験を想起させて振り返らせたり、友達の発表から相違点や類似点に気付かせたりするために、発問を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見交換の場を積極的に設けることで、自分の考えを伝える機会ができ、自分の考えをもつようになってきている。</li> <li>・児童の意見を全体で共有したり、発問を工夫したりすることで、自分の考えとの類似点や相違点に気付くようになってきた。</li> <li>・自分の経験と結び付けて考えていく活動を重ねたことで、具体的な言葉で振り返ることができるようになってきた。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に意見を発表できない児童が多く、発言をする児童に偏りが見られる。</li> <li>・広い視野から多面的、多角的に考えることができるよう、小グループでの話し合い活動を取り入れてきたが、自分の考えを伝え合うだけで、話し合いが深まらない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に意見を発言できない児童のために、小グループでの話し合い活動を多く取り入れる。</li> <li>・児童が自分たちの考えを出し合う中で、更に考えが深まるような展開の授業をしていく。</li> <li>・発問と発問のつながりの言葉掛けや、切り返しの発問等をどのように組み立てるか、児童の思考の流れに沿った発問を考えていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見交換の場を積極的に設け、児童同士で質問をし合うなどの工夫を行うことで、様々な考えが交流できた。</li> <li>・登場人物の考えを自分事として捉えさせる場面では、発問の工夫をしたことで、多面的・多角的に考えられるようになった。</li> <li>・振り返りでは、自分自身のこととして考えることができる児童が増えてきた。</li> </ul>